

憲法9条改悪阻止・民営化絶対反対

人減らし合理化に増員要求をかかげ 職場闘争で反撃を



なにが「美しい国」だ！

「公務員給与・人員を徹底削減」と公言する

安倍政権うちたおそう

郵政職場で働く職員、ゆうメイトのみなさん！

安倍は国会の所信表明演説で「公務員給与を徹底的に削減する」と宣言しました。安倍が言う「美しい国」とはインチキそのもの。「再チャレンジ」などというのも、もう一回フルイにかけて「負け組」にたたく落すと言っていることです。

安倍新政権とは、戦後初

めて改憲を政治公約として登場した政権であり、「5年間で新憲法を作る」と公言しています。教育基本法改悪をはじめ改憲へ向けた国民投票法案をこの臨時国会で押し通そうとしています。極右・国家主義者の安倍は、「拉致」や「ミサイル・核開発」問題を口実に北朝鮮に対する制裁を主導する一方で靖国参拝などを推進してきました。まさに改憲

と戦争への道を通り走る政権です。郵政においても来年10月「民営化スタート」に向かうこの一年間は安倍との正面切った闘いです。

連合の旧官公労指導部は、いっさいを小沢・民主党支持1107年参議院選挙へと流し込むことで、行革・民営化攻撃や改憲攻撃に対する闘いを放棄しています。しかし民営化攻撃は至るところでほころびを見せ、現場から怒りの反撃が始まっています。小泉「構造改革」に対する労働者の積もりにも積もった怒りが噴出しはじめています。

職場生産点を軸にした闘いと秋の臨時国会闘争を爆発さ

「日の丸・君が代」強制は違憲 職場実力闘争が石原・安倍を痛打

石原都知事と都教育委員会が「日の丸・君が代」を強制することは「違憲・違法」だとする画期的な判決が9月21日、東京地裁で出されました。都立校の教育労働者401人が起立や斉唱・ピアノ伴奏の義務がないことの確認を求めた訴訟で、原告側の主張を全面的に認める判決（下記参照）をかちとったのです。日教組本部の屈服を乗り越え、処分を恐れず不起立を貫き闘った現場の教育労働者がかちとった勝利です。

敵の攻撃がどんなに激しくても、労働組合の上部指導部がどんなに屈服していても、現場には不屈に絶対反対を貫く労働者がいます。その存在と闘いがあるかぎり、必ず勝利できることを示したのです。闘えば勝てる！ それは全通においても同じです。今こそ闘う全通労働運動の再生をかちとろう。

せ、そのうねりで連合や全通連の既成指導部をぶっ飛ばし、階級的労働運動を再生させよう。11・5労働者集会に全国から総結集しよう。

9・21東京地裁判決文（抜粋）

入学式、卒業式等の式典会場において国旗に向かって起立し、国歌を斉唱する義務のないことを確認する。起立しないこと及び国歌を斉唱しないことを理由として、いかなる処分もしてはならない。国歌斉唱の際に、ピアノ伴奏義務がないことを確認する。ピアノ伴奏をしないことを理由として、いかなる処分もしてはならない。

日の丸、君が代は、明治時代以降、第二次世界大戦終了までの間、皇国思想や軍国主義思想の精神的支柱として用いられてきたことがあることは否定し難い歴史的事実。

教職員に対し、一律に、義務を課すことは、思想・良心の自由に対する侵害。教育基本法 10条1項所定の不当な支配に該当する。

日比谷1万人集会→銀座1万人デモで集まろう

死ぬな！

やめるな！

闘おう！

きです。

全国で反撃が始まった

「深夜勤を即時中止しろ」「非常勤が集まらない2ネット中止は当たり前」「ただ働きや36協定違反、分単位の超勤発令が横行している」「JPSはやめるべき」「昼の休憩時間がとれない。労働基準局に訴えるべき」「時間外に局周辺の掃除や自主研をやらされている」

「集配局の再編で本人希望でない局を指定された。何のための要員協議だ」「憲法9条改悪に反対すべき」。

これは全国大会以降に開催された、地方大会や支部大会で出された現場の声です。郵政民営化を積極的に推進する連合全通中央によって、組合員の労働条件は切り捨てられていった。この全通本部派に、現場組合員の怒りがたたきつけられているのです。

千葉中央局で3連続深夜勤勤務中に40歳の人が急死しました。パワーアップ研修をうけさせられた仲間が次々と職場を去っている。今こそ「死ぬな！ やめるな！ 闘おう」をスローガンに立ちあがると

集配拠点の再編や業務を無視した人減らしなどの民営化攻撃に「本部が闘わないなら自分たちで闘おう」と身近な問題を取り上げて討論をかさね、切実な要求を掲げた闘いが始まっています。

兵庫・加古川では、ゆうメイトを積極的に組合に組織化することで36権をとりもどし、36交渉をバックに増員要求を提出しました。粘り強い交渉で、ついに1名増員、さらに2名の増員をかちとっています。

埼玉では、さいたま新都心局とさいたま中央局への内務事務の移管とそれにもなう要員協議で、本人希望と違う局の指定に対して、きっぱり拒否する中で本人希望をかちとっています。今後予定されている大量の要員協議に強制配転に対する反撃の第一弾です。

東京では、本人に無断で管理者が勝手に年休を勤務指定表に書き込み、穴の開いた作業を他の班員でやらせようとしたことに組合員の怒りが爆発しています。過度の減員で仕事に間に合わないことに「昼間の休憩なしで仕事しろ」とまで言った管理者に、ついに文書で謝罪させたのです。

これらは、ほんの一例です。全国の職場のいたるところで不当・不法行為が横行し、それに対する現場からの反撃が始まっているのです。どこでも組合員の怒りは爆発寸前であり、今こそ、それをたたきつける時です。

労働者の団結の力で闘う全通の再生を

郵政民営化は、まったく破綻し立ち往生しています。郵政民営化の諸施策そのものが現場におりたつた時に、ことごとく破綻しているではありませんか。来年3月までに集配で5千人超の欠員が見込ま

れ、新規採用しないという計画も吹っ飛んでいます。アクションプラン2に基づくJPSや2ネットが全国随所で中止・延期・縮小に追い込まれ、集配拠点の再編は現場組合員の怒りや社会的反撃にあつています。

郵政分割・民営化は、なにもかも未だ決着がついていないのです。民営化法案が通った瞬間に「民営化反対」を投げ捨てた連合全通本部は「民営化問題は決着した」と勝手に決め込んでいます。それは人減らし合理化を認め、企業防衛主義・愛国主義に転落してきたからであり、労働貴族として組合員の闘いをおさえこもうとしているからです。

これを打ち破り、職場から反撃していけば、郵政民営化は絶対に粉砕できるのです。郵政民営化を柱とする小泉の構造改革はなにをもたらしただか。すさまじい「格差社会」の現出による、6千万労働者の貧困と窮乏であり、生活と生存の徹底的な破壊でした。安倍政権は、小泉ができなかった改憲諸法案の強行突破をたくらんでいます。これに対して、職場から改憲反対・民

営化反対の闘いをつくりだし、郵政民営化もろとも安倍政権を打倒しよう。

分会、支部で闘う団結を取りもどそう。全国各地で職場闘争を巻き起こし、その力を結集しよう。この闘う労働運動の新しい潮流が総結集する場が、11・5全国労働者総決起集会です。連帯と団結をつくりだし、1万人労働者集会と1万人デモで、安倍政権打倒へ立ちあがろう。

青年は職場から改憲反対に立ちあがろう

たたかう労働組合の全国ネットワークをつくろう!

改憲・戦争と民営化-労組破壊にたち向う労働者の国際的団結を!

11・5全国労働者総決起集会

11月5日(日) 正午開会

東京・日比谷野外音楽堂

呼びかけ 全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部

全国金属機械労働組合港合同

国鉄千葉動力車労働組合